

return

## Creative Business

クリエイティブビジネス

## シバセ工業株式会社

「ストローの新たな可能性」を実現、飲料用に代わる市場を創出

「ストローは飲料を飲むためだけのものではない」。環境保護に対する意識の高まりでプラスチック製ストローの使用を廃止する動きが大手外食チェーンをはじめ、学校や自治体など多方面で広がってきている。ストローメーカーのシバセ工業は、この強まる逆風を乗り越え、新たな市場を開拓して業容を拡大している。

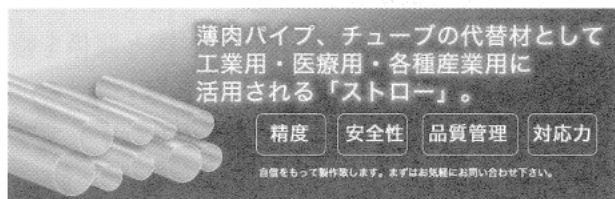
同社は、1926年（大正15年）に精米業を目的に創業、1969年（昭和44年）にストロー製造を本格化、大手乳業メーカーへの供給をベースに販路を拡大してきた。現在では国内トップシェアを獲得するまでに成長し、市場で強固な事業基盤を確立している。

しかし、そこに至るまでの過程は順風満帆といえず、経営が危機的な状況に陥ったのは1度や2度ではなかった。主力先の方針転換による大幅な受注減少や、安価な海外製品との価格競争の激化により年売上高が最盛期の80%減まで落ち込んだこともあった。

脱プラスチックストローの流れを受け、大手ハンバーガーショップやコーヒーチェーンが相次いでプラスチックストローの使用を廃止する動きが強まるなか、新型コロナウイルス感染拡大に伴い外食産業が大打撃を受けて需要そのものが消失しかねない状況にもなった。その逆境の中で、ある顧客からの問い合わせをきっかけに「ストローは飲料用」という先入観を捨て、産業機械や医療機器をはじめ多岐にわたる業界向けの商品を開発した。

利便性の向上やコストダウン、軽量化に繋がる「工業用ストロー」という新たなジャンルを

確立した。新型コロナウイルスのPCR検査用、アルコール検知器用などで多くの顧客から受注が舞い込み、業績をV字回復させたのである。使用事例の図解入りガイドブックによる効果的なPRが奏功し、ダイレクトに顧客ニーズを吸い上げて商品づくりに繋げることで需要先を拡大させている。そのほかにも多品種小ロット生産への挑戦やM&Aによる製品ラインナップの拡充、事業の多角化、オープンイノベーションなど様々な取り組みが実を結びつつある。



なお、今年3月に同社のこれまでの軌跡を綴った「衰退産業の勝算」（井上善海著、幻冬舎）が出版されている。企業経営の根幹を揺るがす市場や営業環境の急速な変化はいつ、どのような形で起こるか分からない今、経営の役立つヒントになるだろう。

## 企業概要

商号：シバセ工業株式会社  
 企業コード：760069014  
 所在地：浅口市鴨方町六条院中 3037  
 創業：1926年  
 資本金：1000万円  
 代表：磯田 拓也  
 従業員：35名  
 電話(代表)：0865-44-2215  
 U R L：https://www.shibase.co.jp/